

あいち病害虫情報 最新情報

令和6年8月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

名古屋地方气象台8月15日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込みです。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、適期防除を心がけましょう。作業は朝夕の涼しい時間帯に行うなど、健康管理に留意しましょう。

トビイロウンカ

8月上旬に実施した巡回調査において、トビイロウンカの発生は確認されませんでした。なお、予察灯において7月2日に長久手市で誘殺が確認されています。また、近隣県では、三重県で7月20日及び25日に予察灯での誘殺が確認されています。県内においても飛来している可能性がありますので、発生動向に十分注意してください。

斑点米カメムシ類

8月上旬の巡回調査における水田内のすくい取り調査では、過去10年間で最も多い状況です。また、予察灯において、大口町でイネカメムシの誘殺数が8月第1半旬に急増しています。詳細については、本日発表の「斑点米カメムシ類情報第2号」を参照してください。

ニカメイガ

弥富市の予察灯では7月下旬頃から、大口町及び西尾市の予察灯では8月上旬頃から成虫の誘殺数が増加しています。特に、近年被害の多い地域における遅い作型では被害に注意しましょう。防除対策については7月10日発表の「ニカメイガ情報第1号」を参考にしてください。

ダイズのシロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ

シロイチモジヨトウについては、8月上旬調査で幼虫の寄生が確認されています。フェロモントラップにおける誘殺数は平年並です。本種は近年増加傾向のため、発生状況に注意が必要です。幼虫の発生を確認したら速やかに防除しましょう。防除対策については、8月2日発表の「シロイチモジヨトウ情報第1号（ダイズ、キャベツ）」を参考にしてください。

オオタバコガについては、8月上旬調査における幼虫の寄生株率は平年並です。フェロモントラップにおける誘殺数は西尾市及び豊田市で平年並、安城市では少ない状況です。防除対策については、本日発表の「オオタバコガ情報第4号（ダイズ、キャベツ、キク等）」を参考にしてください。

ハスモンヨトウについては、8月上旬調査における幼虫の寄生株率は平年並です。フェロモントラップにおける誘殺数は、豊田市では少なく、その他の地域では平年並です。今後、高温が予想されることから、発生量が増えるおそれがありますので、ほ場内を観察し、幼虫の発生や白変葉を確認したら速やかに防除をしましょう。防除対策については、8月2日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号（ダイズ、キャベツ等）」を参考にしてください。

果樹の病害

ナシ黒星病の発生ほ場では、来年の伝染源にならないよう被害落葉の処理を徹底し、収穫後の防除をしましょう。

7月下旬の巡回調査において、ブドウべと病の発病葉率は平年並ですが、発病葉率が高いほ場が確認されています。そのため、薬剤防除や発病葉をほ場外に持ち出すなど防除を徹底しましょう。

果樹の害虫

ナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺数は、豊田市（モモほ場）で多く、長久手市（モモ、ナシほ場）、西尾市（ナシほ場）でやや多い状況です。また、犬山市（モモほ場）では8月第2半旬に増加しているため、今後の発生状況に注意が必要です。ナシでは果実が熟してくると成虫の飛来が多くなります。収穫前日数に注意して薬剤防除をしましょう。

ナシのハダニ類の発生が多いほ場があります。ほ場での発生状況に注意して防除しましょう。

チャバネアオカメムシのフェロモントラップによる誘殺数は全体的にやや多い状況です。7月下旬に実施したヒノキ球果におけるカメムシ類の口針鞘（吸汁した跡）数による離脱時期の予測によれば、早いところでは既に新世代成虫がヒノキ林から離脱し、果樹園への飛来が始まっていると考えられます。県内各地におけるヒノキ林からの離脱時期の予測等は、8月2日発表の「果樹カメムシ類情報第3号」を参照してください。また、スギ・ヒノキ林の近くの果樹園では、台風通過などで突発的に飛来が急増することがあるので注意してください。

カンキツほ場に設置したチャノキイロアザミウマの粘着トラップによる7月以降の誘殺数は、平年並の状況です。本虫の防除適期は、成虫発生ピークの時期です。アメダス観測地点において有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日（表）を参考に防除を行いましょう。

表 チャノキイロアザミウマの成虫発生ピーク予測日（8月16日計算時点）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第5世代	8/9	8/8	8/4	8/6	8/10	8/9	8/6	8/5	8/10	8/5	第4世代 8/14
第6世代	8/27	8/25	8/23	8/23	8/28	8/27	8/23	8/21	8/28	8/22	第5世代 9/5
（前年）	8/24	8/24	8/19	8/20	8/26	8/25	8/23	8/23	8/29	8/22	（前年） 9/10
前年差	3日遅	1日遅	4日遅	3日遅	2日遅	2日遅	±0	2日早	1日早	±0	前年差 5日早
第7世代	9/15	9/14	9/10	9/10	9/16	9/15	9/10	9/8	9/17	9/9	第6世代 10/6

各地のアメダス平均気温から予測。8月15日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

野菜・花き類はチョウ目害虫に注意！

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、稲沢市、豊川市及び豊橋市のほ場で多い状況です。本日発表の「オオタバコガ情報第4号（ダイズ、キャベツ、キク等）」を参考に、ほ場や育苗ほをよく観察して早期発見、早期防除に努めましょう。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、一部地域でやや多い状況です。ほ場や育苗ほでの発生に注意しましょう。8月2日発表の「シロイチモジヨトウ情報第1号（ダイズ、キャベツ）」を参考に防除しましょう。

コナガのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年並です。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、碧南市のニンジンほ場でやや多い状況です。8月2日発表の「ハスモンヨトウ情報1号（ダイズ、キャベツ等）」を参考に、ほ場や育苗ほでの発生に注意して適宜防除しましょう。

ハイマダラノメイガは、発芽、定植直後に加害されると被害が大きくなります。は種から定植時に薬剤を処理するなどして、初期被害を防ぎましょう。
育苗ほでは防虫ネットを設置してチョウ目害虫の飛来を防ぎましょう。

イチゴ炭疽病に注意！

7月下旬の巡回調査において、炭疽病の発生量は平年並ですが、今後の気温は高いと予想されており、注意が必要です。発生を確認したら、発病株は速やかに処分しましょう。発病株の周辺にある株は病徴が無くても同様に処分しましょう。親株で発生があった場合は、その親株から発生しているランナー、子株も処分しましょう。

イチゴのハダニ類

7月下旬の巡回調査でハダニ類の発生量が多い育苗ほ場がありました。本ほでのハダニ類を抑えるには、育苗段階での防除を徹底することが重要です。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖型農薬などを組み合わせて防除しましょう。本ほにハダニ類を持ち込まないように、定植直前に炭酸ガス処理や苗浸漬処理等の防除を実施しましょう。苗浸漬処理を行う場合は、薬害を生じさせないために、高温時の処理は避け、薬液は処理直前に十分に攪拌させてから使用しましょう。また、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

トマトのコナジラミ類

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（TOCV）を媒介するタバココナジラミ及びオンシツコナジラミの本ほへの侵入を防ぐために、定植前に施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置するとともに、苗でのコナジラミの施設持ち込みに注意して、早期防除に努めましょう。本日発表の「コナジラミ類情報第1号（トマト）」も参考にしてください。

トマトキバガ

トマトキバガの県内農作物への被害は確認されていませんが、複数地点のフェロモントラップで継続的に誘殺されています。7月3日発表の「トマトキバガ情報第2号」及び令和5年10月23日発表の「令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号」を参考に、施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置して施設内侵入を防ぐとともに、農薬による防除を行いましょう。ほ場での発生が疑われる場合は病害虫防除室またはお近くの農業改良普及課へお知らせください。疑わしい被害葉及び果実は、ほ場やハウス周辺に放置せず、速やかに土中深くに埋却するか、ビニール袋で一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させたいので、適切に処分しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-41-9513 FAX 0561-63-7820